

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

2023年6月期 通期決算説明資料

フィーチャ株式会社（東証グロース4052）

2023年8月14日

1. 業績ハイライト
2. 2023年6月期（通期）決算概要
3. 事業概要及び進捗
4. 今後の業績予想と成長戦略

Appendix.

本資料の数値はすべて連結ベースで記載しております。

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

1. 業績ハイライト

2. 2023年6月期（通期）決算概要

3. 事業概要及び進捗

4. 今後の業績予想と成長戦略

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

□ 前期比で増収減益

- ・ 受託開発収入 $\Delta 12.3\%$

新規案件の開発開始に遅れが生じ、一部翌期以降にずれの影響により減少

- ・ ライセンス収入 $+16.9\%$

新車向け車載カメラ案件の量産が増加傾向、また、使用権ライセンスの契約があった影響で増加

- ・ 大型案件に備え、エンジニアをはじめとした優秀な人材の確保、オフィスフロアの増床による開発体制の整備等の将来に向けた投資を実行

□ ボッシュ株式会社との資本業務提携を発表

(単位：百万円)

	2022年6月期	2023年6月期		
	前期実績	当期実績	前期比	当期予想
売上高	382	389	+1.8%	386
うち、受託開発収入	197	172	$\Delta 12.3\%$	171
うち、ライセンス収入	185	216	+16.9%	214
営業利益	25	$\Delta 23$	—	$\Delta 34$
親会社株主に帰属する当期純利益	29	$\Delta 28$	—	$\Delta 36$

- 自動車部品世界シェア最大手であるボッシュとの資本業務提携を発表
- 両社グループの関係を一層深化させ、長期的な戦略パートナーシップを構築
- 当社からボッシュへ、先進運転支援システム（ADAS）向け画像認識分野の専門的なエンジニアリングサービス及び技術を提供
- 開発パイプライン拡充による長期的な収益基盤の確立を図る

将来のライセンス収入につながる量産案件の受注を着実に積み上げ

● : 新規受注 ● : 量産開始 ● : 新機能・提携リリース



モビリティ	新車				● ボッシュ株式会社との資本業務提携を発表
	ドラレコ	● ドラレコADAS&DMS量産案件受注			
		● ドラレコDMS追加機能開発受注			
スマート インフラ			● プライバシーマスキングライセンス開始		
DX (AI- OCR)		● ハンモック社向けOCRエンジン提供開始			● SaaSサービス提供会社向けOCRエンジン提供開始
			● ITサービス提供会社向けOCRエンジン提供開始		

主な量産案件進捗状況

量産案件を複数開発中、長期的なライセンス収入の積み上げを実現

海外案件

国内案件

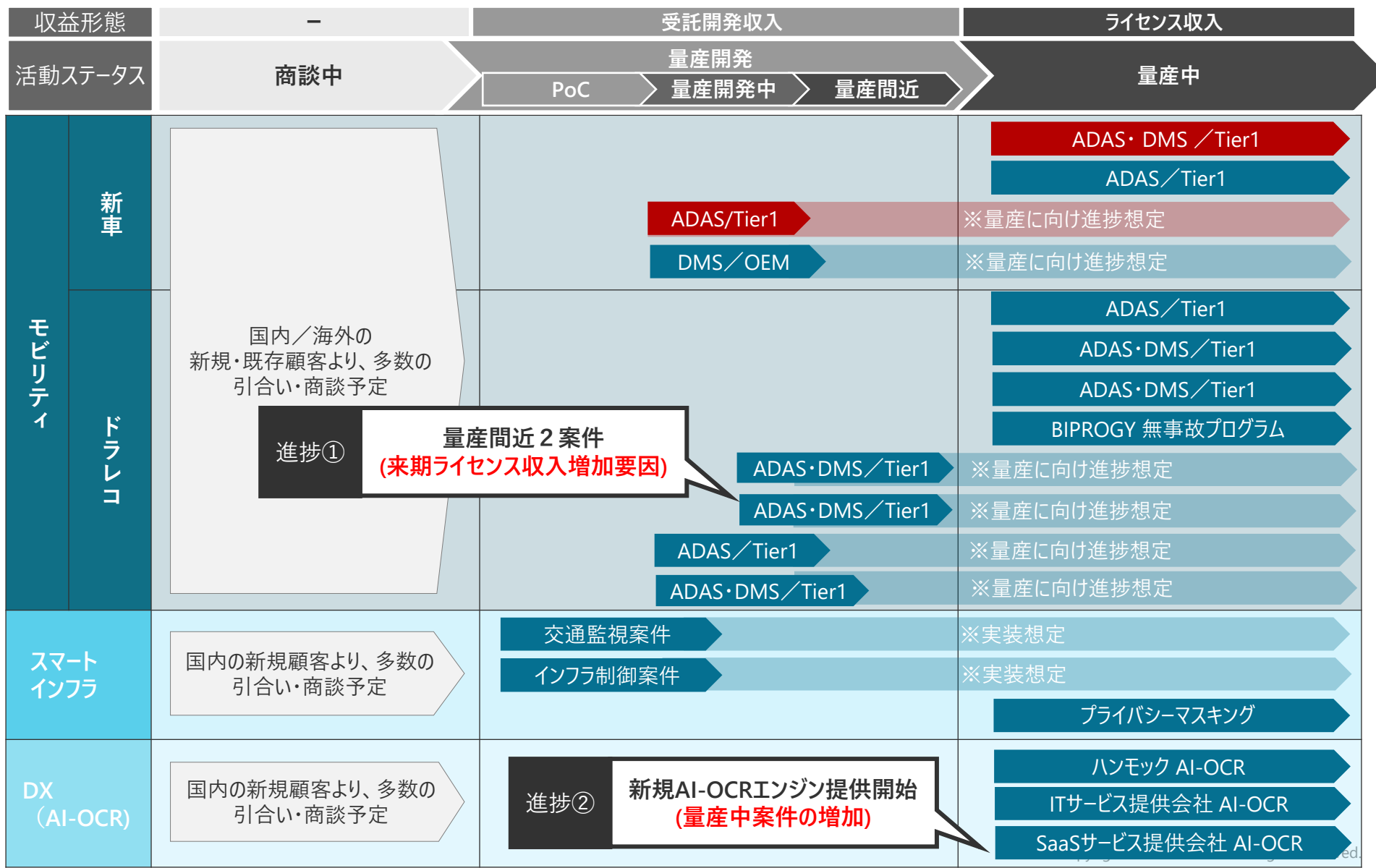
収益形態	-	受託開発収入	ライセンス収入
活動ステータス	商談中	PoC	量産開発 量産開発中
			量産間近
			量産中
モビリティ	新車		ADAS・DMS / Tier1 ADAS / Tier1 ADAS/Tier1 ※量産に向け進捗想定 DMS/OEM ※量産に向け進捗想定
	ドラレコ	国内/海外の新規・既存顧客より、多数の引合い・商談予定 ✓ 量産開発案件は、量産を見込んでおり、今後、受託開発収入からライセンス収入に移行する想定	ADAS / Tier1 ADAS・DMS / Tier1 ADAS・DMS / Tier1 BIPROGY 無事故プログラム ADAS・DMS / Tier1 ※量産に向け進捗想定 ADAS・DMS / Tier1 ※量産に向け進捗想定 ADAS / Tier1 ※量産に向け進捗想定 ADAS・DMS / Tier1 ※量産に向け進捗想定
スマートインフラ	国内の新規顧客より、多数の引合い・商談予定	交通監視案件 インフラ制御案件	※実装想定 ※実装想定 プライバシーマスキング
DX (AI-OCR)	国内の新規顧客より、多数の引合い・商談予定		ハンモック AI-OCR ITサービス提供会社 AI-OCR SaaSサービス提供会社 AI-OCR

主な量産案件進捗状況

量産案件を複数開発中、長期的なライセンス収入の積み上げを実現

海外案件

国内案件



1. 業績ハイライト
2. 2023年6月期（通期）決算概要
3. 事業概要及び進捗
4. 今後の業績予想と成長戦略

Appendix.

Make Things Intelligent

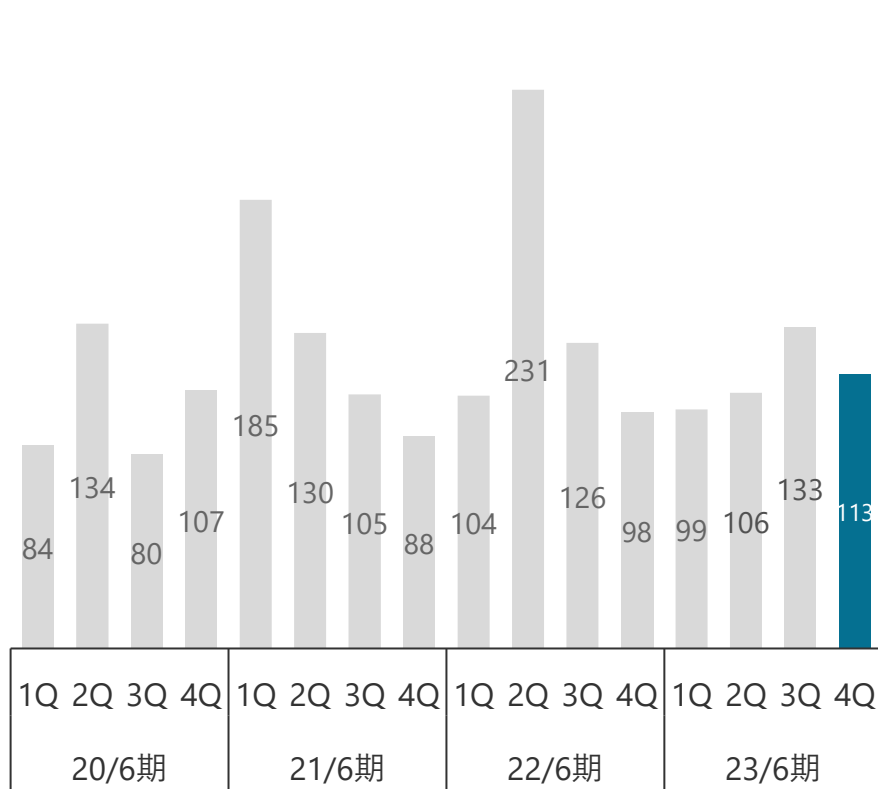
あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

(単位：百万円)

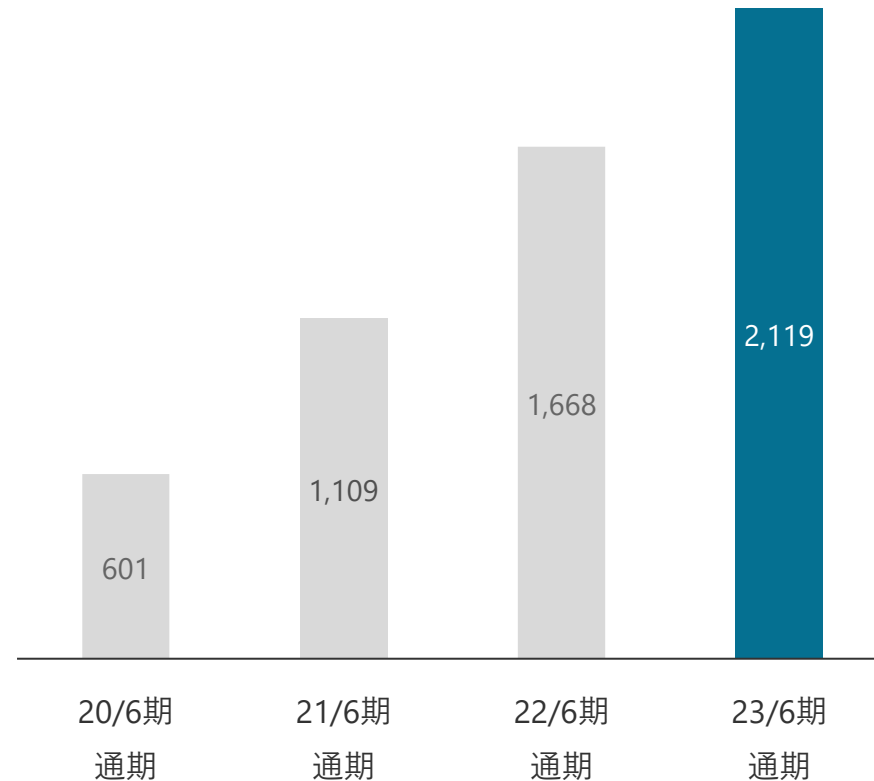
	2022年6月期	2023年6月期			
	前期実績	当期実績	前期比	当期予想	予想比
売上高	382	389	+1.8%	386	+1.0%
うち、受託開発収入	197	172	△12.3%	171	+1.1%
うち、ライセンス収入	185	216	+16.9%	214	+0.8%
売上原価、販管費	357	412	+15.6%	420	△1.8%
うち、人件費	225	258	+14.8%	261	△1.2%
うち、経費	125	154	+22.4%	156	△1.4%
うち、仕掛品振替	5	0	—	2	—
営業利益	25	△23	—	△34	—
経常利益	26	△25	—	△37	—
親会社株主に 帰属する当期純利益	29	△28	—	△36	—

- ・ 新車向け車載カメラへの搭載台数が増加傾向
- ・ 下記に含まれない使用権ライセンス(*1)の契約もあり、ライセンス収入増加

四半期別量産台数 (千台)

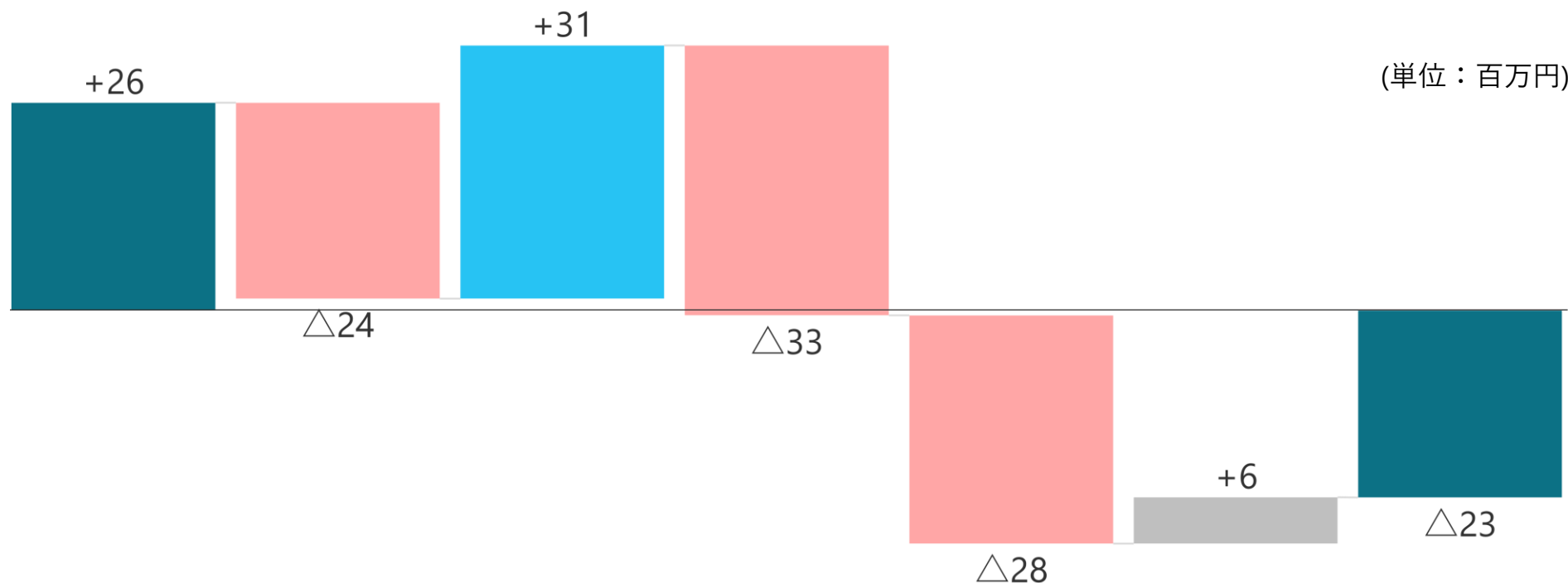


累計量産台数 (千台)



(*1) 当社ソフトウェア製品のソースコードまたはオブジェクトコードを顧客に使用許諾する際のライセンス

ライセンス収入の増加により増収となったものの、人件費等の先行コスト増により減益



(単位：百万円)

2022年6月期
営業利益

受託開発収入
の減少

一部来期に期ずれした
影響

ライセンス収入
の増加

使用権ライセンス契約に
よる影響

人件費の増加

エンジニア増員及び
昇給による人件費増

経費の増加

オフィス増床に伴う賃
料負担等の増加

仕掛品振替

前期案件との納期の
違い

2023年6月期
営業利益

(単位：百万円)

	2022年6月期末	2023年6月期末	
	前期実績	当期実績	前期末との差異
流動資産	550	504	△45
現金及び預金	470	416	△54
売掛金及び契約資産	57	66	+8
その他	21	21	△0
固定資産	49	86	+37
資産合計	599	591	△8
負債合計	30	42	+11
純資産合計	568	548	△19
負債・純資産合計	599	591	△8

(単位：百万円)

	2022年6月期	2023年6月期	
	前期実績	当期実績	前期との差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	16	1	△14
税金等調整前当期純利益	26	△25	△51
償却費	8	7	△1
株式報酬費用	—	21	+21
売上債権の増減額	△22	△8	+13
その他	3	6	+3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4	△55	△51
財務活動によるキャッシュ・フロー	3	△0	△3
現金等の換算差額	3	0	—
現金等の増減額	18	△54	—
現金等の期末残高	470	416	△54

1. 業績ハイライト
2. 2023年6月期（通期）決算概要
3. 事業概要及び進捗
4. 今後の業績予想と成長戦略

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

モビリティ事業を主軸に、スマートインフラ事業やDX事業まで幅広く展開

モビリティ事業（主軸事業）

過去10年超にわたり、車載カメラ及びドラレコ向けの画像認識ソフトウェアを開発。
低計算コストかつ優れた精度、カスタマイズ性により、多数のTier1、OEM、ドラレコメーカーに採用。

主製品：
車載カメラ及びドラレコ用
先進運転支援システム(ADAS)
ドライバー監視システム(DMS)



スマートインフラ事業（応用事業）

モビリティ事業で培った技術をインフラ向けに応用。
スマートシティの実現に向けたインフラに関する様々なニーズに対応。

主製品：
交通監視ソフト、インフラ制御ソフト

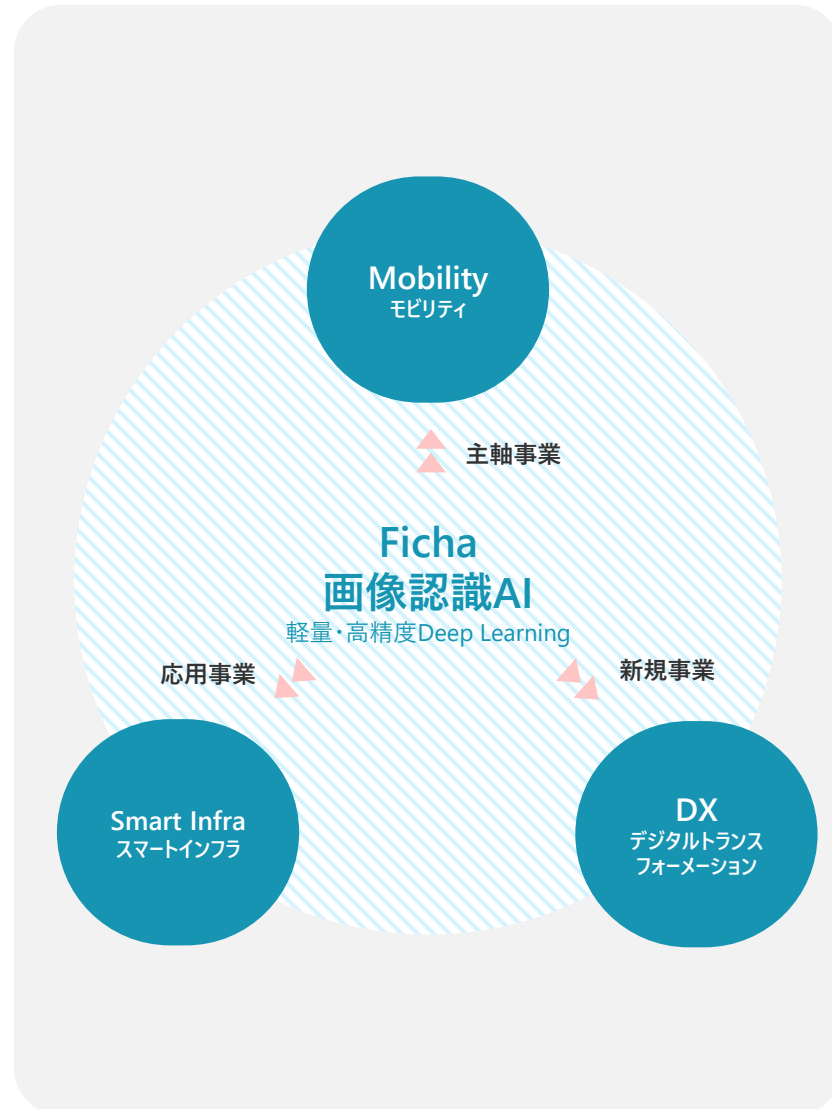


DX事業（新規事業）

競争力の高い物体検出アルゴリズムをベースに開発された高精度AI-OCRや自動帳票解析機能により、DXビジネスを拡大。

主製品：
AI-OCR、Form Analyzer

納品期限	令和3年 12月 1日	納品場所	〒170-6019 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイ 6019F		
商品コード	商品名	単位	数量	単価	金額(税込)
SRP12	ホワイトボード		20	¥1,000	¥2,200
4678Q	カーナビ		5	¥200	¥1,000
8W54H	A型バリケード		1	¥3,250	¥3,250
				合計金額	¥6,750



ADAS&DMS ラインナップが充実 ボッシュとの提携に加え、他の量産案件も順調に進捗

Point 1

「軽量」かつ「高精度」

- KITTI* ベンチマークテスト歩行者検出第1位
- 汎用SOCで動作可能な軽量ディープラーニング

Point 2

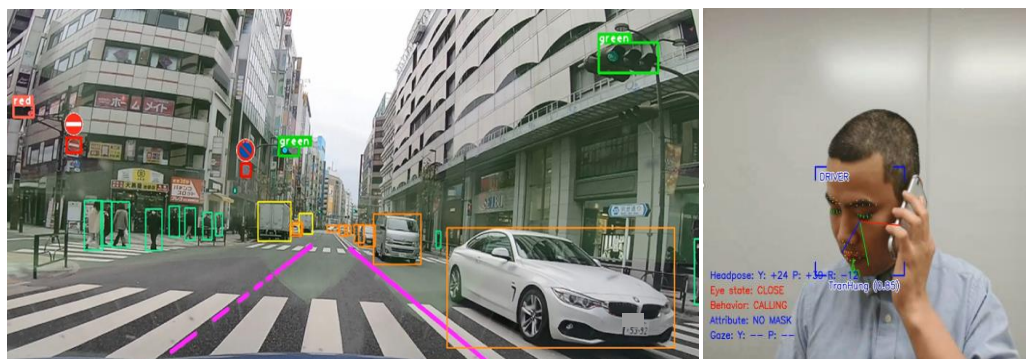
豊富なラインナップ

- 【ADAS】フロント、サラウンドカメラ向け先進運転支援
- 【DMS】居眠り、脇見、危険運転等の検知
- プライバシーマスキング、看板OCR

Point 3

多数の量産実績

- 累計ライセンス台数200万台を突破
- 今後も複数案件の量産開始を予定



主な市場ニーズ

- ① 自動運転
- ② 運転支援
- ③ 運転手監視
- ④ ドラレコデータ活用

製品ラインナップ一例

種類	検知対象	機能
ADAS	車両検知	前方車間距離
		衝突警報
		低速時追突警報
	車線検知	車線逸脱警告、ふらつき検知
	横断歩道検知	一旦停止無視
	歩行者検知	信号無視検知
DMS	信号検知	速度超過警告
	標識	一時停止不停止、信号無視検知
	居眠り	居眠り運転検知
	脇見	脇見運転検知
	危険動作検知	携帯電話操作/通話検知
		喫煙検知
その他	顔認証	運転手の顔認証
	プライバシーマスキング 看板OCR	

* 世界最大規模の車載用ベンチマークテスト「The KITTI Vision Benchmark Suite」2020年4月時点

交通監視やインフラ制御に画像認識技術の需要拡大 スマートインフラの構築に向けた案件が複数進行中

Point 1

モビリティ技術の応用

- モビリティ事業で培った豊富な開発実績や技術・ノウハウをインフラ向けへ応用
- 【ADAS技術】交通監視、インフラ制御、人流解析 etc.
- 【DMS技術】個人認証、デジタルサイネージ etc.

Point 2

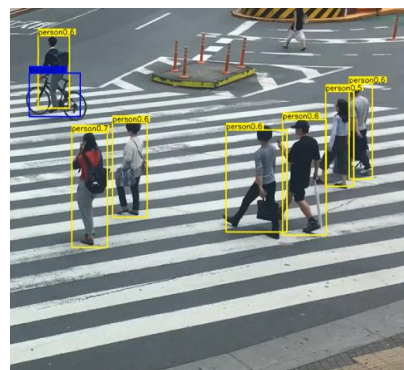
人流解析

- 様々な角度で設置されたカメラで撮影した映像から人物を検出及び追跡
- 人数カウントと人物の移動軌跡、年齢・性別などの情報を可視化
- 利用用途に応じカスタマイズ可能

Point 3

エッジ処理も可能

- ビッグデータ解析にあたり取得・保管する情報への配慮が必要
- 解析後の映像データを保存せず、個人情報漏洩リスクを低減
- 顔やナンバープレートに自動でモザイク処理する自動マスキング技術を保持



主な市場ニーズ

- ①交通監視
- ②インフラ制御
- ③マーケティングリサーチ
- ④個人情報保護

独自のAI技術でDXビジネス向けソリューションを提供 複数企業へライセンス提供開始、規模拡大を目指す

Point 1 活字/手書き文字を高精度で認識

- 文字領域を高精度に自動検知
- 最先端の文字認識アルゴリズムを活用
- 大規模な学習データセットで学習

Point 2 フォーム自動解析

- 帳票画像から項目名と項目値のペアを自動的に抽出
- レシート・請求書等の幅広い帳票に対応可能
- 特定書類向け、サービス構築可能

Point 3 ライブラリ提供可能

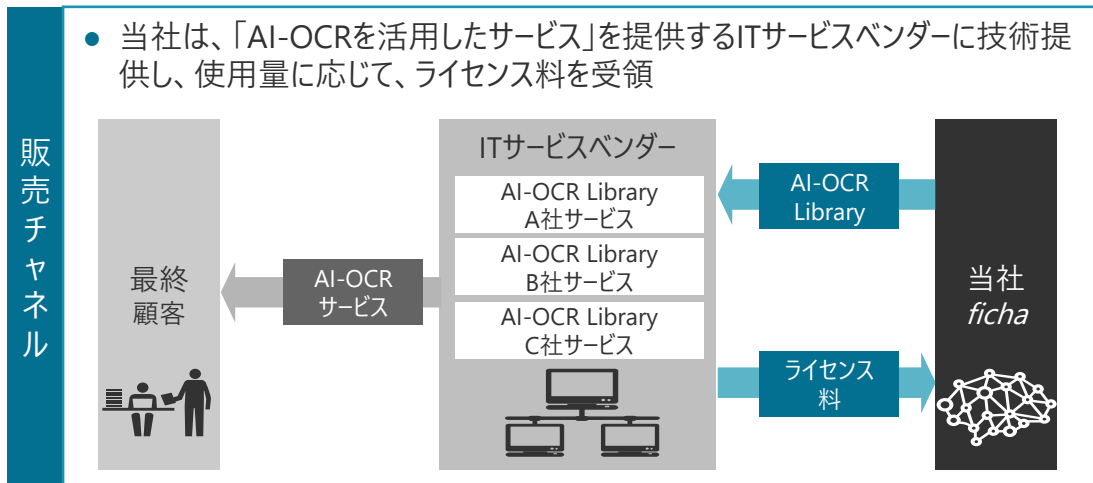
- 自社クラウド/サーバ内でライブラリ利用可能
- クラウドが使用できないケースにも対応可能

高精度の文字検知

- 当社独自の画像認識アルゴリズムにより、高精度の文字検知と処理の軽さを実現

主な市場
ニーズ

- ①手書き文字、帳票対応
- ②RPA
- ③各種アーカイブ
- ④電子帳簿保存



1. 業績ハイライト
2. 2023年6月期（通期）決算概要
3. 事業概要及び進捗
4. 今後の業績予想と成長戦略

Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

2024年6月期業績予想

- 受託開発収入は、複数の大型案件の受注により大幅増収見込み
- 事業拡大のため、エンジニアを中心とした人材への投資実行。開発環境構築のためオフィスの増床を実施済み
- 生成AI技術への研究開発投資を計画

(単位：百万円)

	2023年6月期	2024年6月期	
	当期実績	翌期予想	当期比
売上高	389	580	+48.9%
うち、受託開発収入	172	349	+101.8%
うち、ライセンス収入	216	231	+6.7%
売上原価、販管費	412	558	+35.1%
うち、人件費	258	342	+32.3%
うち、経費	154	215	+40.0%
うち、仕掛品振替	0	0	—
営業利益	△23	22	—
経常利益	△25	21	—
親会社株主に帰属する当期純利益	△28	18	—

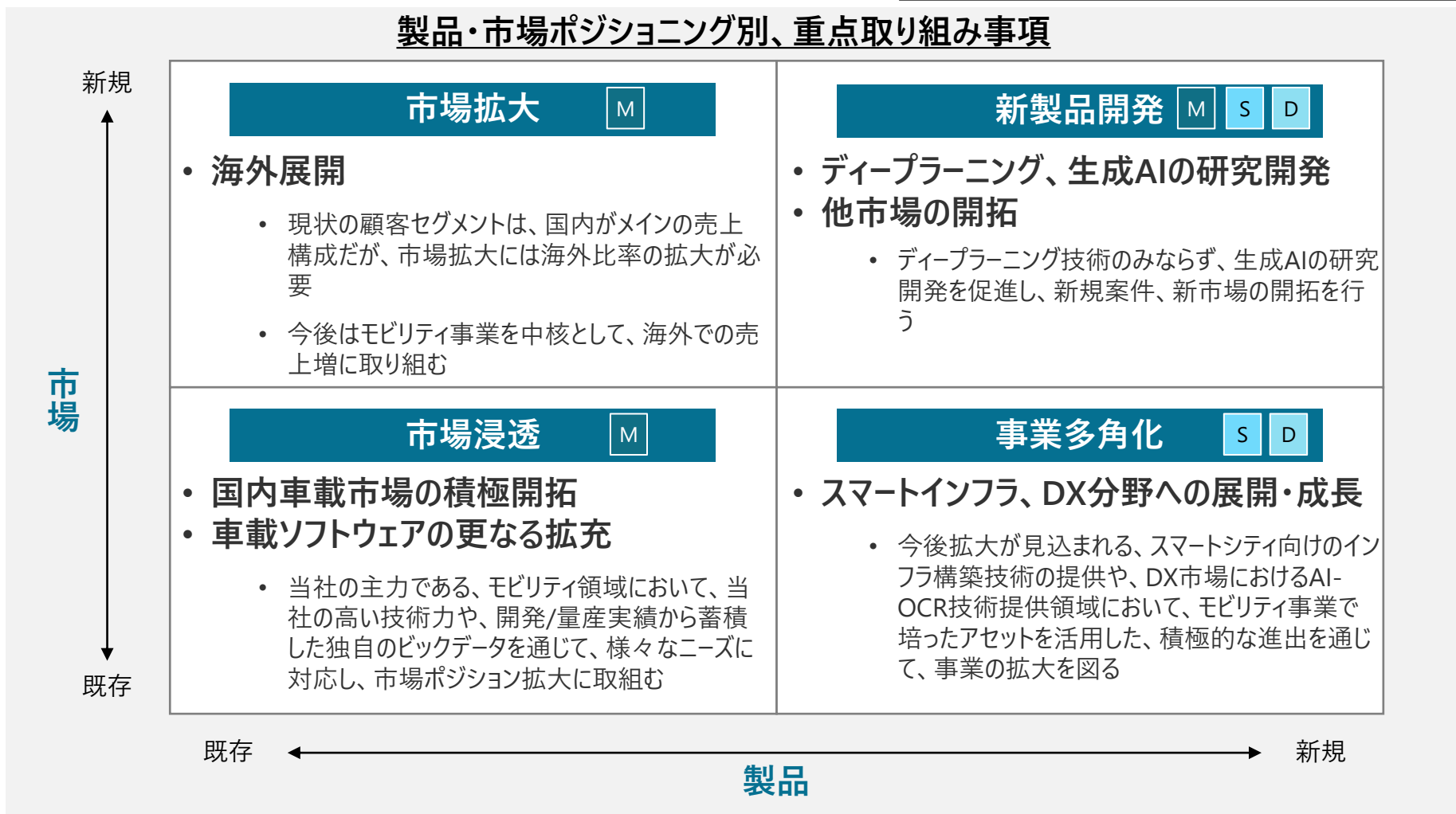
今後も拡大する画像認識ソフトウェア市場において、当社の技術力を通じて、開発/販売を加速し、事業拡大と高い成長性を継続

モビリティ事業
M

スマートインフラ事業
S

DX事業
D

製品・市場ポジショニング別、重点取り組み事項



経営執行体制の若返りを図り、成長戦略の着実な遂行を通じて、当社グループの持続的な成長と企業価値向上をより一層推進するため、社長交代を実施（2023年9月28日株主総会、取締役会をもって正式決定）

- 現代表取締役CTOの曹が代表取締役社長CEO兼CTOへ
- 現代表取締役社長CEOの脇は営業管掌の取締役として、引き続き全般的な営業活動の牽引役として注力し、グループの価値向上に励む



新代表取締役社長 曹暉

（経歴）

2007年、名古屋大学大学院情報科学研究科知能メディア専攻博士課程修了。博士（情報科学）取得後、独立行政法人理化学研究所、株式会社豊田中央研究所にて物体認識に関する研究開発に従事。2012年に当社入社、画像認識事業を立ち上げ。2013年当社取締役就任、2017年当社代表取締役CTO就任（現任）。

1. 業績ハイライト
2. 2023年6月期（通期）決算概要
3. 事業概要及び進捗
4. 今後の業績予想と成長戦略

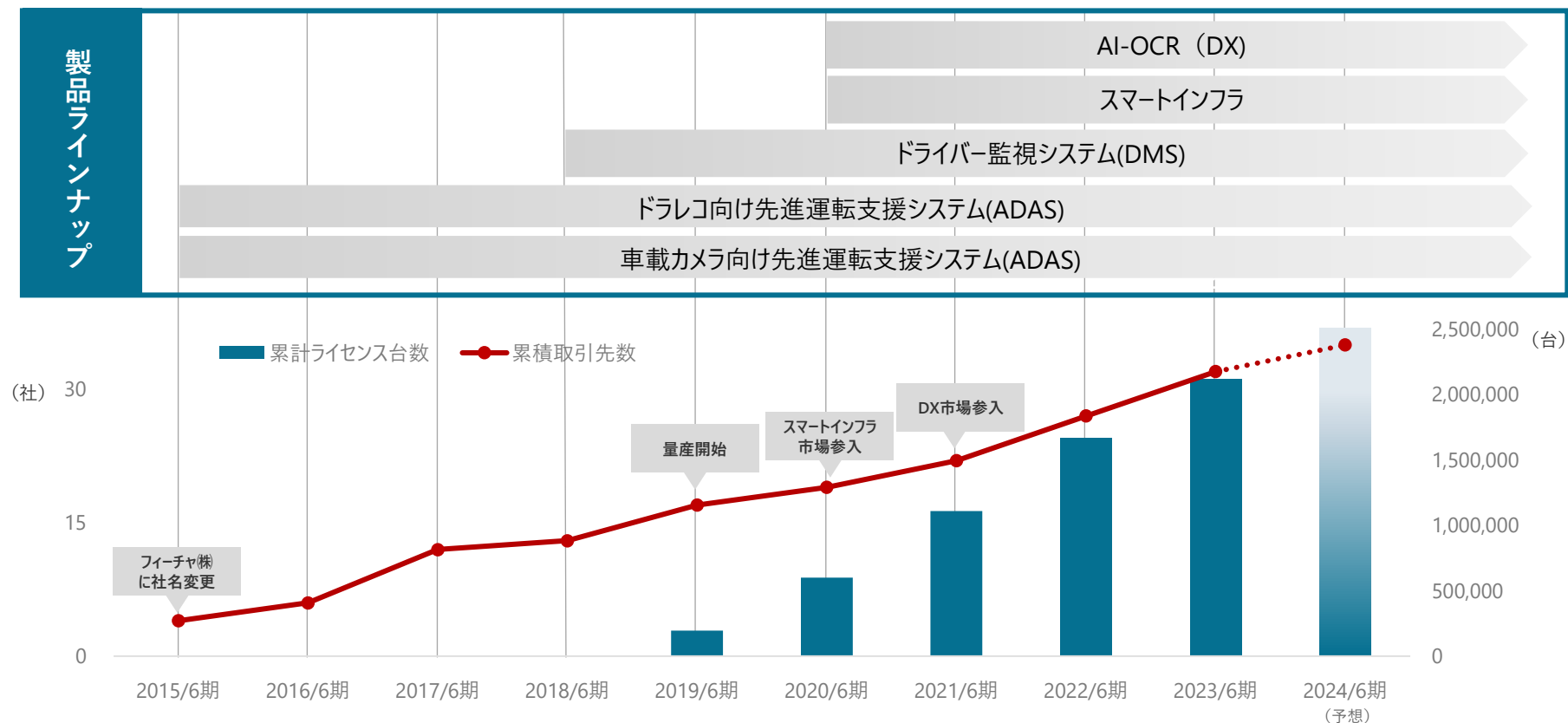
Appendix.

Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

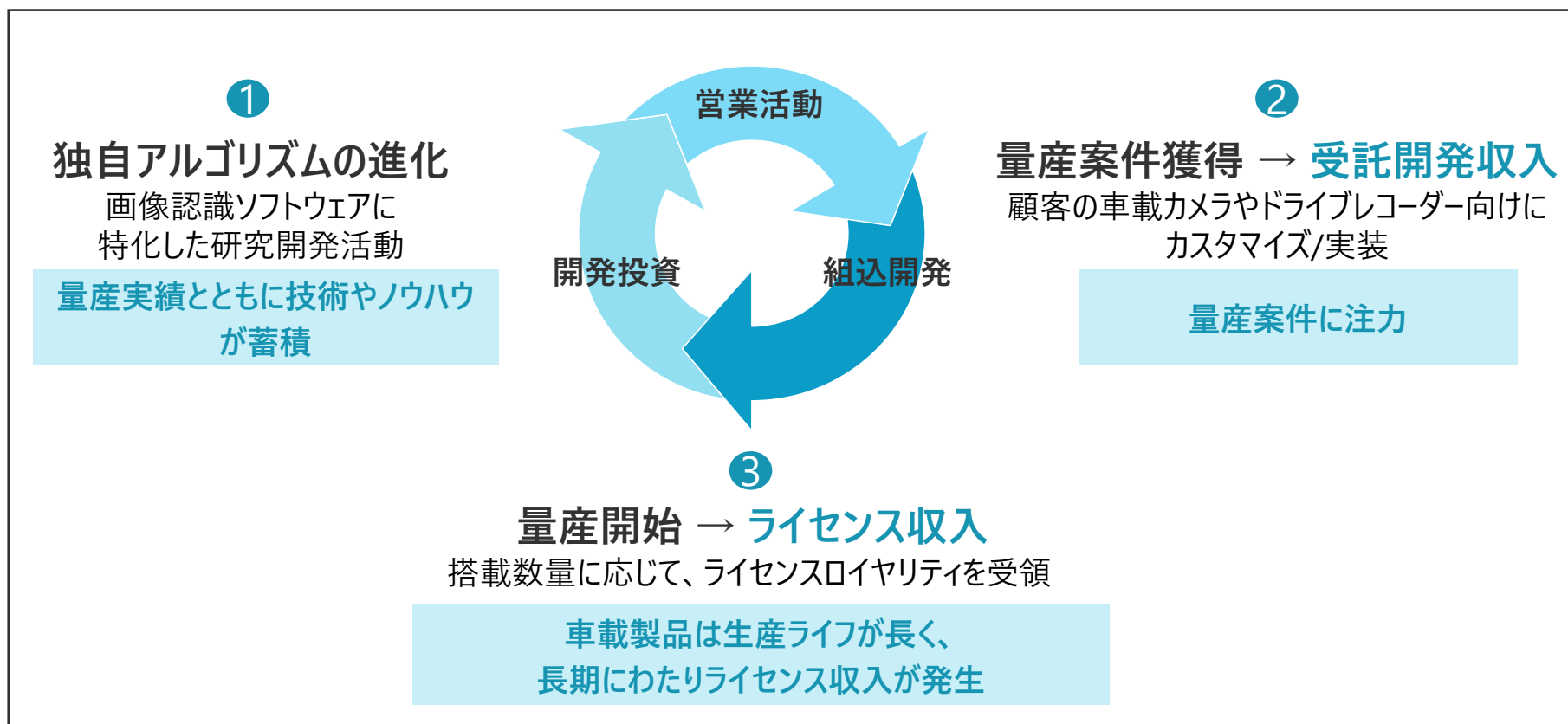
- 製品ラインナップの充実とともに、着実な成長を実現
- 高い技術力と実用性を評価いただき、累計ライセンス台数は200万台を突破
- 2020年以降は、収益基盤となるモビリティ事業の拡販に加え、事業多角化を見据え、応用技術の活用によるスマートインフラ事業やDX事業に参入

累積取引先数と累計ライセンス台数の推移

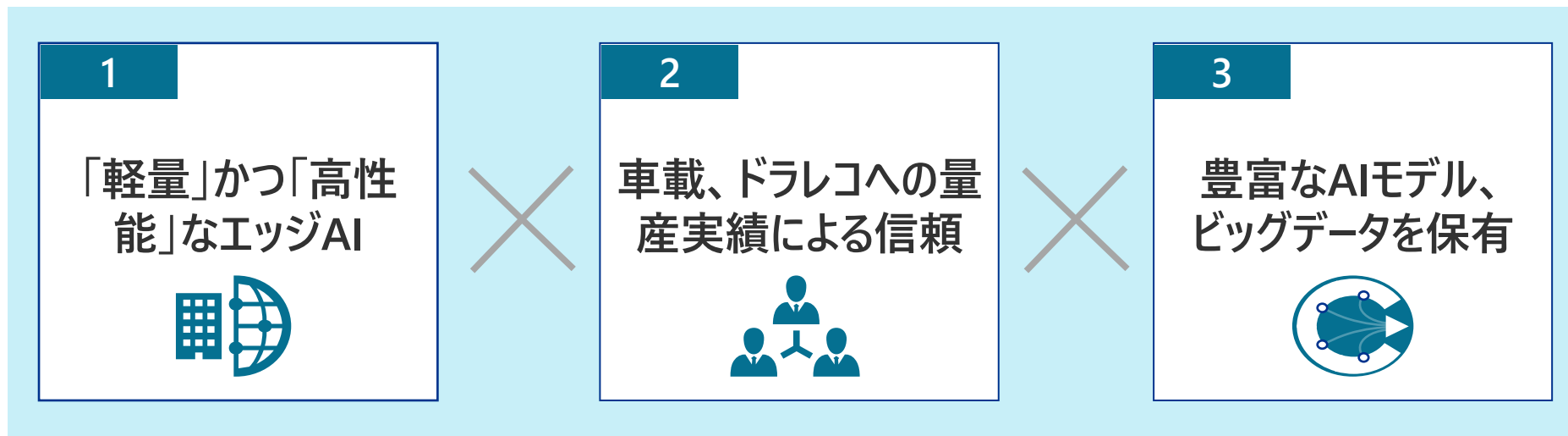


- 量産案件に注力した活動プロセスによって、長期ライセンス収入の実現を推進
- 多数のライセンス製品を積み上げていくことで、加速度的な成長が可能な収益構造
 - ✓ 当社売上高のうち、約50%がライセンス収入（ライセンス収入の利益率100%）
 - ✓ 量産前提案件に注力し長期的なライセンス収入を狙う（量産案件の車載製品はライフサイクルが長い）

$$\text{売上高} = \text{受託開発収入} + \text{量産台数} \times \text{ライセンス単価}$$



- 当社は、機能性に優れたエッジAI等の技術力をベースとした多数の量産実績を有しております。
- 加えて、開発活動を通じて蓄積した、当社独自のAIモデルや保有ビッグデータを強みとして、更なる事業拡大に取り組んでおります。



当社の強み

1	<ul style="list-style-type: none"> • 車載カメラやドラレコ等の非力なLSI で動作可能な高精度な軽量AIを保有。 • 顧客のニーズに沿って開発した豊富なソフトウェアラインナップを有する。
2	<ul style="list-style-type: none"> • 当社の画像認識ソフトウェアは、その実装性能を評価され、車載カメラやドラレコに採用され、多数の製品で量産化。累計搭載台数は200万台を突破。
3	<ul style="list-style-type: none"> • モビリティ分野・スマートインフラ分野の開発経験を通じて、豊富なAIモデルと撮影画像等のビッグデータを保有。少ない顧客データで効率的な開発が可能。

車載・ドライブレコーダー向け画像認識ソフトウェアソリューション

精度と実装性を兼ね備えたアルゴリズム

画像認識ソフトウェア技術

ディープラーニング

非ディープラーニング

画像処理



車載用ソフトウェア特有のノウハウ



LSIへの実装技術



安全、安心、効率化に貢献する多様なソフトウェアラインナップ

モビリティ検知認識

- 歩行者検出
- 二輪車検出
- 縁石検出
- 標識認識
- 信号認識
- 車線検出
- 四輪車検出
- 横断歩道検出
- フリースペース検出



顔検知認識

- 顔特徴点検知
- 顔検知
- 顔向き推定
- 顔認証
- 視線推定
- 顔属性推定
(マスク、眼鏡、性別、年齢、表情)



HMI*検知認識

*ヒューマンマシンインターフェイス

- ジェスチャー認識
- 全身姿勢推定
- 危険動作認識
(喫煙、ドリンク、電話)





『汎用LSIで動く』軽量ADASソフト

歩行者、車両、バイク、標識、車線などを高精度に検出



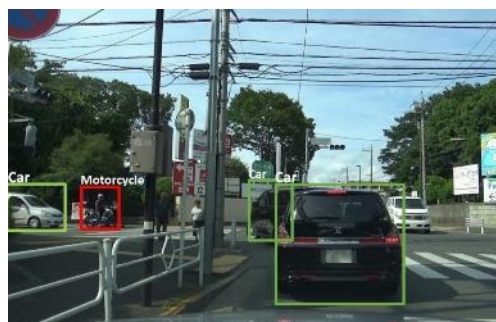
歩行者衝突警報 (PCW)

- 歩行者、自転車の検知
- 歩行者衝突警報



車線逸脱警報 (LDW)

- 車線と車両間の位置を検出
- 車線逸脱、ふらつき警報



前方車衝突警報 (FCW)

- 前方車両の検知
- 前方車衝突警報
- 衝突被害軽減ブレーキ



標識検知 (TSD)

- 標識検出を利用した交通違反の検知



『汎用LSIで動く』ディープラーニング

車内カメラによってドライバーの運転状態を監視し、危険運転・事故防止を目的としたシステム

特別なハードウェアを必要とせず、汎用CPUで実現可能



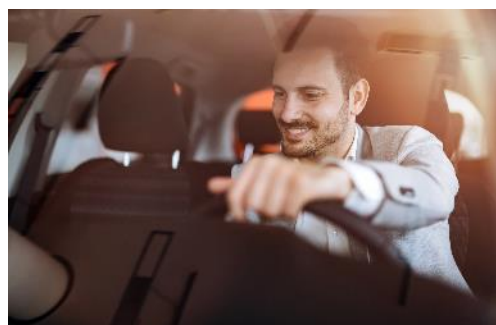
顔認証

- ドライバーを識別し、シート位置を自動調整



危険運転検出

- 運転中の電話、飲食、喫煙を検出



よそ見運転

- 顔の向き等から運転中のよそ見を検出



居眠り運転検出

- 目の状態、顔の角度、あくび頻度等から居眠り状態を検出

当社グループでは、持続可能な開発目標（SDGs）達成のためには企業による貢献が不可欠であると認識しています。そのため、SDGsの全17ゴールのうち特に関連が深い2ゴールを優先ゴールとして特定しました。



✓ 当社ソフトウェアを世に広め安心・安全に貢献

自動運転時代に向かう中、当社グループも画像認識技術に更に磨きをかけ、社会の安全や快適、効率に貢献していきます。

✓ 次世代技術の開発促進

イノベーション創出機会を促進するため、社内の環境づくりと、外部ステークホルダーとの連携に注力しています。

(単位：百万円)

	2022年6月期				2023年6月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	52	132	104	92	77	84	145	82
うち、受託開発収入	20	68	58	50	42	42	50	36
うち、ライセンス収入	31	64	46	42	34	41	94	45
※売上原価	17	36	25	31	26	26	28	23
売上総利益 (粗利率)	35 67.0%	96 72.7%	79 76.0%	61 66.6%	50 65.4%	57 68.2%	116 80.2%	59 71.9%
※販管費	63	62	55	66	63	65	70	107
うち、研究開発費	23	20	16	23	23	19	24	45
営業利益 (営業利益率)	△28 -	34 25.9%	23 22.9%	△4 -	△12 -	△8 -	45 31.6%	△47 -

※原価+販管費合計	80	98	80	97	90	92	99	130
うち、人件費	56	56	55	57	61	62	64	69
うち、経費	29	31	28	36	31	35	32	55
うち、仕掛品振替	△4	10	△3	3	△1	△5	2	4